

『通訳翻訳研究への招待』の最終号によせて

学会誌『通訳翻訳研究』が発行とほぼ同じ時期に J-stage によりオンラインで公開されることとなり、『通訳翻訳研究への招待』のオンライン誌の使命がなくなり、本号をもちまして最終号となりました。本誌の創刊に関わられた水野 的先生と、オンライン版の最後の時の会長の北代美和子先生に寄稿をお願いいたしました。会員の皆様からのご投稿と査読の先生方のご協力にこの場を借りて心から御礼申し上げます。

2022 年 11 月吉日

『通訳翻訳研究への招待』編集委員会

『翻訳研究への招待』創刊の頃

創刊の頃のことを書いてほしいとのことですが、かなり前のことなので記憶があいまいです。おそらく 2005 年にできた「翻訳研究分科会」の活動の中から、翻訳研究の学会誌のようなものを作ろうという機運が自然発生的に出てきたのだらうとばかり思っていました。しかし創刊号の(自分が書いた)「まえがき」を見ると、直接のきっかけとなったのは、カナダの Association canadienne de traductologie の翻訳研究専門誌 *TTR : traduction, terminologie, rédaction* が日本の翻訳研究特集号を企画し、それに柳父先生はじめ数人のメンバーが執筆したことようです。創刊号刊行の時点(2007 年 1 月)でこの特集号はまだ刊行されておらず、実際に出たのはその 2 年後になりました。この特集号を知らない人も多いと思いますので、いい機会ですからここで紹介しておきます。執筆したのは柳父先生の他に、渡部富栄さん、Yukari Fukuchi Meldrum さん、玉置祐子さん、Minako O'Hagan さん、そして私です。他に酒井直樹さんも書いていますが、これは編集した Natalia Teplova さんの人選によるものと思われます。現在、この号は公開されていますので興味のある方はぜひ読んでみてください。(URL は <https://www.erudit.org/en/journals/ttr/2009-v22-n1-ttr3935/>)

ここで記録に残しておきたいのは、翻訳研究分科会の前、2004 年 7 月に「翻訳理論研究会(仮称)」の会合が開かれていることです。これが翻訳研究分科会の前身になります。2010 年には学会の方針として分科会を「研究プロジェクト」にすることになり、翻訳研究分科会は「翻訳研究育成プロジェクト」に姿を変えます。

なお準備資料を見ると、当初は occasional paper として出そうということだったようで、journal にしようとは考えていなかったことがわかります。(当然 ISSN もありません。)実際、創刊号とか第一号のような文字はなく、「まえがき」には「このささやかな論文集」とあります。そのささやかな論文集として始まった『翻訳研究への招待』はその後『通訳翻訳研究への招待』とタイトルを変えながら、献身的な編集担当者や査読者の存在に支えられて、多くのすぐれた論文を生み出しました。『翻訳研究への招待』は、日本の翻訳研究の礎石を築くという役目を十分に果たしたのではないかと思います。それを土台にして、今後はより実践的・規範的な研究も現れてほしいと思います。

水野 的 (日本通訳翻訳学会元会長)